

## 平成27年ゴールデンウィークにおける主な観光施設等の利用状況について

平成27年ゴールデンウィークに県内の主な観光施設・イベントを訪れた観光客の状況について、次のとおりまとめました。

調査目的： ゴールデンウィーク期間中の観光客の傾向を調査し、今後の観光振興施策や観光事業者の事業展開の参考資料とする。

調査地点： 県内主要観光施設利用状況、市町村イベント等 68地点

集計期間： 平成27年4月25日(土)～5月6日(水)の12日間

観光客数： 延べ約152万人(1日当たり12万6千人)  
1日当たり(対前年比10,381人増、8.9%増)  
前年：128万人(11日間、1日当たり11万6千人)

## 1 概 況

今年のゴールデンウィークは、前半の飛び石連休と後半の5連休に分かれた分散型で、特に後半は比較的長期に休暇を取りやすかったことに加え、ガソリン価格の低下、好天に恵まれたこともあり、1日当たりの観光客数は前年比8.9%増加した。

レジャー意欲を駆り立てる上で重要なガソリン価格は、4月27日時点のレギュラーガソリン店頭価格(全国平均)は1ℓ139.9円と、前年同期比で約15%安い水準であった。

また、全期間雨天とならず安定的に天候や気温が推移したため、公園等の屋外施設や野外イベント、登山客の増加が見られた。

また、6年に1度(数えて7年)の甲斐善光寺の御開帳の影響もあり、特に甲斐善光寺に近接する山梨県地場産業センター(かいてらす)では、1日当たり約40%の増加となった。

圏域別では、全ての圏域において増加しているが、最も大きく伸びたのは富士・東部圏域の1日当たり20%増加であり、最も伸びが小さいのは峡北圏域の1日当たり0.5%増加であった。

## 2 各圏域別の状況

別添資料参照

### 【峡 中】

- ・ 峡中圏域所在の対象施設等に係る観光客数は、1日当たり前年比104.8%と増加した。昨年天候不順の影響で観光客数が減少した屋外施設で増加している。
- ・ 最も大きく数字が伸びたのは、「山梨県地場産業センター（かいてらす）」の1日当たり約40%増であり、近接する甲斐善光寺での6年に一度（数えて7年）の御開帳の影響があったと考えられる。また、「風土記の丘・曾根丘陵公園」や「山梨県小瀬スポーツ公園」、「赤坂台総合公園」では前年と比較して一日当たり前年比20%以上増加している。

### 【峡 東】

- ・ 峡東圏域所在の対象施設等に係る観光客数は1日当たり前年比101.6%と微増した。登山客の伸びやイベントの工夫などで大幅に増加した地点がある一方、屋内施設は昨年よりも減少している。
- ・ 登山客の堅調な伸びに支えられた「大菩薩嶺」では1日当たり前年比40%、昨年ゴールデンウィーク後に開催していたイベントを期間中に開催した「山梨県森林公園 金川の森」では1日当たり前年比約30%増と、大きく観光客数を伸ばした。

### 【峡 南】

- ・ 峡南圏域所在の対象施設等に係る観光客数は、1日当たり前年比104.5%と増加した。圏域全体としては増加しているが、地点毎では観光客数が昨年より減少が目立つ。
- ・ イベント当日が晴天であった「南アルプス早川山菜祭り」や、昨年リニューアルし今年レストランが新規オープンした「山梨県富士川クラフトパーク」では前年比25%以上増加した。

### 【峡 北】

- ・ 峡北圏域所在の対象施設等に係る観光客数は、1日当たり前年比100.5%とほぼ横ばいであった。
- ・ 全体的に前年並みとなっており、「名水公園べるが」や「山梨県立まきば公園」などの屋外施設では前年比約10%前後の増加となっているが、目立ったイベントがなかったことや温泉施設などの屋内観光施設が減少した。

### 【富士・東部】

- ・ 富士・東部圏域所在の対象施設等に係る観光客数は、1日当たり前年比120.5%と増加した。花の見頃とゴールデンウィーク期間が重なった地点での増加が見られ、外国人観光客の増加を要因として挙げる施設も複数あった。
- ・ 例祭で多くの観光客が訪れた「北口本宮富士浅間神社」では1日当たり前年比12.4%増加するなど、富士山人気が引き続いている。